

科目名	社会科学講義(政治経済講義)						
科目名(英)	Social Sciences "Political and Economic"						
単位数	4単位	時間数	45時間/60時間	担当者	横山 真太郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)での頻出単元である「社会科学(政治経済)」での得点率を上げることを学習目標に授業を行う。政治分野・経済分野・社会分野の3分野の要点を踏まえ、問題演習を重ねることで「社会科学(政治経済)」の受験攻略のポイントの修得につなげる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					政治分野の要点を学び、試験問題で問われる知識の概要を説明することができる。	
	○					経済分野の要点を学び、試験問題で問われる知識の概要を説明することができる。	
	○					社会分野の要点を学び、試験問題で問われる知識の概要を説明することができる。	
	○	○				試験問題で問われる知識を活用でき、試験問題の正答を選択することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 絶対合格シリーズ 社会科学 テキスト編 ・一問一答暗記テキスト2019年度 原点 ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	統治機構-三権分立、国会、内閣、裁判所			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	2	経済のしくみ-市場と価格、企業のしくみ、景気と物価			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	3	日本国憲法の基本的性格			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	4	地方自治			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	5	金融と日本銀行の金融政策			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	6	財政政策			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	7	選挙制度			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	8	民主主義の発展、各国の政治制度			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	9	基本的人権の尊重			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	10	国際政治と日本			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	11	為替レートと貿易、国際経済との関わり、国民所得と経済成長			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	12	現代日本経済の構造と課題			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	13	経済学史			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
	14	社会保障・情報化、労働事情			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと		
15	環境問題・農業問題			テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと			
評価方法	4月～7月での授業理解度確認小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				100%
履修上の注意	授業時に配布するプリントはしっかりと復習を行うこと。						

科目名	社会科学講義(政治経済講義演習)						
科目名(英)	Social Sciences "Political and Economic"						
単位数	3単位	時間数	15時間/60時間	担当者	桑原 賢		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)での頻出単元である「社会科学(政治経済)」での得点率を上げることを学習目標に掲げ講義演習を行う。政治経済分野の要点を踏まえ、問題演習を中心に小テストで知識の確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					社会科学(経済)分野の要点を理解し、初級程度公務員試験問題の解答で平均正答率80%ができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 社会科学 問題集編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	民主主義 (過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	2	三権分立1(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	3	三権分立2(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	4	市場・価格(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	5	企業(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	6	景気・物価(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	7	裁判所(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	8	金融(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	9	財政(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	10	地方自治(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	11	選挙制度(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	12	為替・貿易(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	13	国際政治1(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	14	国際経済2(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
	15	日本経済史(過去問演習)			社会科学講義の復習を行っておくこと		
評価方法	4月~7月での授業理解度確認小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○					100%
履修上の注意	授業時に配布するプリントはしっかりと復習を行うこと。						

科目名	人文科学講義(日本史)							
科目名(英)	History of Japan							
単位数	6単位	時間数	30時間/90時間	担当者	児玉 博基			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	公務員専攻科 1年							
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)での頻出単元である「人文科学(日本史)」での得点率を上げることを学習目標に授業を行う。日本政治史の流れを中心に要点を踏まえたうえで、問題演習を重ねることで「人文科学(日本史)」の得点率向上につなげる。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標			
	○				日本史分野の要点について学び、試験問題で問われる知識の概要を説明することができる。			
	○				講義を通し公務員試験に必要な内容を履修し、自ら学習ができる。			
			○		歴史を通し、現代社会における課題や現状を自己の見解で述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編著 絶対合格シリーズ 人文科学 テキスト編 ・配布プリント 一問一答暗記テキスト2019年度 原点							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	古代1 縄文時代～大和時代				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	2	古代2 飛鳥時代～大化の改新				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	3	古代3 律令国家の完成				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	4	古代4 奈良時代				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	5	古代5 平安時代				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	6	古代6 平安時代末期				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	7	中世1 鎌倉時代① 執権政治と蒙古襲来				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	8	中世2 鎌倉時代② 鎌倉時代末期				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	9	中世3 南北朝時代～室町時代初期 下剋上の世の中				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	10	中世4 室町時代中期以降～ 室町時代末期				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	11	近世1 安土桃山時代				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	12	近世2 江戸時代① 江戸初期の外交				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	13	近世3 江戸時代② 幕藩体制の動揺				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	14	近世4 江戸時代③ 諸外国の接近と幕政改革				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	15	近世5 江戸時代④ 開国とその影響				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	16	近世6 江戸時代⑤ 幕末の政局				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	17	近世7 江戸時代⑥ 幕末～明治維新				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	18	近代1 明治・大正① 自由民権運動				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	19	近代2 明治・大正② 松方財政				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	20	近代3 明治・大正③ 条約改正				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	21	近代4 明治・大正④ 護憲運動1				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	22	近代6 明治・大正⑤ 協調外交と護憲運動2				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	23	近代7 昭和① 昭和戦前				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	24	近代8 昭和② 昭和戦中				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	25	現代1 戦後① 戦後処理と復興				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	26	現代2 戦後② 高度経済成長				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	27	文化史① 飛鳥文化～鎌倉文化				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	28	文化史② 南北朝文化～化政文化				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	29	文化史③ 明治文化～大衆文化				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	30	文化史④ 文化史のまとめ				テキスト該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	評価方法	4月～7月での授業理解度確認テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		授業理解度確認テスト	○	○				90%
出席状況					○		10%	
履修上の注意	授業時に配布するプリントはしっかりと復習を行うこと。							

科目名	人文科学講義(世界史)						
科目名(英)	World History						
単位数	6単位	時間数	30時間/90時間	担当者	柴田 健吾 松隈 達也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	高校世界史の中から公務員試験と関係の深い箇所を履修する。 講義は担当教員2名が交互に担当し、基本的には「ヨーロッパ・アメリカ史」と「アジア史」に分けて、それぞれの地域を「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」と時代順に進め、公務員試験に対応できるレベルの獲得を目指す。授業はおもに政治史を中心に進めるが、時折文化史や社会経済史にも触れる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				中国史をよく理解し、公務員試験(模試)で正答を選ぶことができる。		
	○				ヨーロッパ史をよく理解し、公務員試験(模試)で正答を選ぶことができる。		
	○				近現代史をよく理解し、公務員試験(模試)で正答を選ぶことができる。		
			○		世界史学習を通して、論理的思考や多様な視点を身につけ、世界情勢に関心を持つことができる。		
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 人文科学 テキスト編 ・関連プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	中国史(殷～前漢)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	古代ギリシア			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	中国史(新～南北朝)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	古代ローマ			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	中国史(隋～唐)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	ローマ帝政			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	中国史(唐末～北宋・南宋)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	フランク王国			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	中国史(モンゴル帝国～元)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	(ローマ教皇、十字軍)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	中国史(明～清)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	ルネサンス			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	中国史(清末)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	大航海時代			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	15	中国史(中華民国)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	16	宗教改革			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	17	中国史(国共合作)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	18	絶対王政			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	19	中国史(中華人民共和国)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	20	イギリスの革命			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	21	第一次世界大戦			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	22	アメリカ独立戦争			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	23	ロシア革命、ヴェルサイユ体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	24	フランス革命			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	25	世界恐慌			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	26	ナポレオン戦争とウィーン体制			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	27	第二次世界大戦			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	28	産業革命とイギリス帝国			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	29	冷戦			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	30	19世紀ヨーロッパ各国			テキストの該当ページを読んでおくこと		
評価方法	4月～7月での授業理解度確認テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業理解度確認テスト	○					90%
	出席				○		10%
履修上の注意	授業の進捗が速いので、テキストをよく復習すること。分からない箇所は積極的に質問すること。						

科目名	人文科学講義(地理)								
科目名(英)									
単位数	6単位	時間数	30時間/90時間	担当者	馬場 秀樹				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	公務員専攻科 1年								
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)で、頻出単元になる「人文科学(地理)」での得点率を上げることを目標に講義を行う。世界各地の地形・気候の特徴を中心に、要点を踏まえたうえで問題演習を重ねながら公務員試験(地理)の得点率向上を目指す。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					地理分野の要点について学び、試験問題で問われる知識の概要を説明することができる。			
	○	○				授業を復習することにより地理の知識を定着させ、横断的理解を元に公務員試験問題の解答を正しく導きだすことができる。			
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 人文科学 テキスト編(地理) ・帝国書院 : 地図帳								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
		【はじめに】地理の基礎知識①②				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第1講座】気候・土壌①②③				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第2講座】地形①②③				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第3講座】地図・図法①②				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第4講座】農業・エネルギー①②③				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第5講座】東アジア				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第6講座】東南アジア ①②				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第7講座】南アジア				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第8講座】西アジア				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第9講座】アフリカ				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第10講座】ヨーロッパ①②				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第11講座】ロシア・旧ソ連諸国・中央アジア				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第12講座】北アメリカ				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第13講座】南アメリカ				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第14講座】オセアニア				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第15講座】人口				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第16講座】漁業・産業				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
		【第17講座】時差				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。			
	【第18講座】世界の地形・気候・土壌の総復習				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。				
	【第19講座】世界各地域の特色の総復習				毎週1度朝に実施される週テストに合格出来るように復習を行う。				
評価方法	4月～7月での授業理解度確認テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	授業理解度確認テスト	○	○				100%		
履修上の注意	毎回持参するもの → 絶対合格シリーズ 人文科学(地理) と、帝国書院発行 地図帳								

科目名	自然科学講義(数学)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	15時間/60時間	担当者	甲斐 友康		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員採用試験で出題されやすい単元を、授業内で配布される演習プリントや麻生オリジナルテキストを使用して学習する。また、問題演習を通して本試験の傾向も学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各単元の基本的解法を身に付けている。	
		○				公務員試験本試験問題解答時に、適切な解法を導き出し正しく解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 自然科学 テキスト編 ・補助プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	展開、因数分解					
	2	平方根(基本計算:足し算・引き算・掛け算・割り算)					
	3	平方根(有理化)、一次関数(1)					
	4	一次関数(2)、二次方程式・二次不等式(1)					
	5	二次方程式・二次不等式(2)					
	6	第1講義～第5講義の復習・調整					
	7	二次関数(1)					
	8	二次関数(2)					
	9	二次関数(3)					
	10	二次関数(4)					
	11	三角比(1)					
	12	三角比(2)					
	13	三角比(3)					
	14	円の方程式・領域					
15	第7講義～第14講義の復習・調整						
評価方法	4月～7月での演習問題・小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	数学演習・小テスト	○	○				90%
	出席状況				○		10%
履修上の注意							

科目名	自然科学講義(生物)						
科目名(英)	Chemistry、Biology						
単位数	4単位	時間数	15時間/60時間	担当者	山端 亜弥		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	自然科学分野の生物について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストおよび授業内で配布するプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や麻生オリジナルの類似問題を解き、本試験の出題傾向を学ぶとともに知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				各単元の基本的知識を身に付け、公務員採用試験問題を適切な解法で解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 自然科学 テキスト編 ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生体のつくり					
	2	細胞分裂					
	3	生殖					
	4	遺伝					
	5	酵素					
	6	同化(光合成・窒素同化)					
	7	異化(呼吸・発酵)					
	8	刺激と反応1 (神経系)					
	9	刺激と反応2 (目・耳・筋肉)					
	10	恒常性と調節1 (血液)					
	11	恒常性と調節2 (自律神経・免疫)					
	12	植物の反応					
	13	動物の行動					
	14	生態系					
	15	進化					
評価方法	授業と並行して行う確認テスト(小テスト)の得点率(100%=100点)によって評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	自然科学講義(地学・物理)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	15時間/60時間	担当者	山端 亜弥		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	自然科学分野の地学・物理について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストおよび授業内で配布するプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や麻生オリジナルの類似問題を解き、本試験の出題傾向を学ぶとともに知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				地学・物理について各単元の基本的知識を身に付け、公務員採用試験問題を実践的な解法で解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 自然科学 テキスト編 ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地球の内部					
	2	地震					
	3	岩石					
	4	火山					
	5	大気構成					
	6	天気1 (気圧)					
	7	天気2 (日本の天気)					
	8	地球の運動					
	9	太陽・月					
	10	太陽系の天体					
	11	恒星と宇宙					
	12	地球の歴史					
	13	波動1 (音と光)					
	14	波動2 (波の性質)					
	15	放射線					
評価方法	授業と並行して行う確認テスト(小テスト)の得点率(100%=100点)によって評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	自然科学講義(化学・物理)						
科目名(英)	Chemistry & Physics						
単位数	4単位	時間数	15時間/60時間	担当者	中泉 満智栄		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	自然科学分野の化学・物理について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストおよび授業内で配布するプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や麻生オリジナルの類似問題を解き、本試験の出題傾向を学ぶと共に知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				化学・物理の基本的知識を身に付け、公務員採用試験問題を適切な解法で解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集 : 絶対合格シリーズ 自然科学 テキスト編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	物質の構造1 周期表・基本事項・物質の構造(解説1~2)					
	2	物質の構造2 物質の構造(解説3~6)					
	3	モル・化学反応式					
	4	酸と塩基					
	5	酸化・還元1 酸化・還元(解説1~4)					
	6	酸化・還元2 酸化・還元(解説5~7)					
	7	周期表					
	8	気体					
	9	気体の性質・溶解度					
	10	金属の性質					
	11	力					
	12	滑車・てんびん・ばね・浮力					
	13	物体の運動					
	14	仕事・工学的エネルギー・熱量					
15	電気						
評価方法	授業と並行して行う確認テスト(小テスト)の得点率(100%=100点)によって評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	文章理解講義						
科目名(英)	Contemporary Japanese Language & English Reading Comprehension						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	本多 利幸		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	<p>国語と英語に関する文章の理解に関する内容を学び、公務員試験の出題分野である文章理解に対応できる力を身に付ける。 公務員試験の過去問の演習・解説。和文の文章理解をメインとするが、50分の授業時間のうち20分は英文の文章理解についてにあてる。漢字・慣用句などの国語、英単語などの小テストも毎コマ実施する。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		文章理解(和文)において、正解を導くための解法を身につけることができる。	
	○	○		○		文章理解(英文)において、正解を導くための解法を身につけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生キャリアサポート編集：絶対合格シリーズ 文章理解 テキスト編・問題集編・問題集解説編 ・七賢出版：オープンセサミシリーズ公務員 文章理解 ・ナガセ：英単語FORMULA1700 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	2	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	3	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	4	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	5	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	6	和文:内容一致1題・文章整序2題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	7	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	8	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	9	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	10	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	11	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			次回小テスト範囲の暗記		
	12	和文:要旨1題・空欄補充1題、英文1題、演習30分・解説20分			復習		
	13	これまでの復習、解き残した問題の演習			次回小テスト範囲の暗記		
	14	和文:古文1題、英文1題、演習25分・解説25分			次回小テスト範囲の暗記		
15	和文:古文1題、英文1題、演習25分・解説25分			復習			
評価方法	4月～6月での小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。また、出席状況も評価の対象とする。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	◎				80%
	出席状況				○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	判断推理講義(判断論理)					
科目名(英)						
単位数	3単位	時間数	30時間/45時間	担当者	山本 剛	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	公務員専攻科 1年					
授業概要	判断推理の論理分野において、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストと授業内で配布されるプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や麻生オリジナルの類似問題を解くことで本試験の出題傾向を学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○					
		○				
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編集：絶対合格シリーズ 判断推理 テキスト編 ・配布プリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
		1. 対応関係 ①2つの事柄②場合分け・間接的な表現 ③組合せ				
		2. 試合・勝敗 ①リーグ戦②トーナメント戦 ③特殊なパターン・勝率				
		3. 論理 ①三段論法②左または右かつ③ベン図				
		4. うそつき ①グループ分け②半分半分③犯人探し				
		5. 順序関係 ①数直線と平均②ブロック化 ③順序の変動・折り返し ④樹形図・時刻と時計のずれ				
		6. 集合・人数 ①ベン図②キャロル表③最大・最小				
		7. 位置・方位 ①位置②円卓③方位				
		8. 暗号 ①対応規則②いろいろな暗号				
		9. 手順 ①天秤量り・ニセ金②帽子・油分け算 ③ハノイの塔・定員ありの移動				
		10. 暦・カレンダー				
		11. 数量推理 ①鳩ノ巣原理・○×の問題②数量関係				
評価方法	4月～6月での小テストでの総合計点を算出し、満点を100点と換算する。 個々の平均得点にて下記の基準に沿って評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	小テスト	○	○			
履修上の注意						

科目名	判断推理講義(判断図形)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	15時間/45時間	担当者	吉武 伸生		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	判断推理の論理分野において公務員採用試験出題される単元を(中心に)、麻生オリジナルテキストと授業内で配布されるプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や、麻生オリジナルの類似問題を解くことで本試験の出題傾向を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					判断推理各単元の基本的解法を身に付けている。	
		○				問題の意図を読み解き、図を用いた適切な解法を身に付け、公務員試験本試験問題を解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編著 絶対合格シリーズ 判断推理 テキスト編, 問題集編 ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	折り紙					
	2	道順					
	3	位相					
	4	展開図①組み立て方					
	5	展開図②サイコロ					
	6	平面図形①数え上げ					
	7	平面図形②断片の組み立て					
	8	軌跡①直線上の軌跡					
	9	軌跡②円周上の軌跡					
	10	空間図形の分割①着色・串刺し					
	11	空間図形の分割②切断					
	12	多面体・切断・投影					
	13	空間図形の投影					
	14	まとめ問題演習①					
	15	まとめ問題演習②					
評価方法	4月～6月での小テストでの総合計点を算出し、満点を100点と換算する。個々の平均得点にて下記の基準に沿って評価する。←表現方法の検討をお願いします。学生が理解できる表現となる必要があります。						
	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	数的推理講義(数的論理)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	30時間/45時間	担当者	月足 勇		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員試験必須の科目となる数的推理について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストと授業内で配布されるプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や、麻生オリジナルの類似問題を解くことで本試験の出題傾向を学ぶとともに知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					頻出パターンを理解し、各単元の基本的解法や必要となる数学的知識を身に付ける。	
		○				数学的思考力・論理力を応用して、本試験問題に解答できる適切な解法を身に付ける。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編著 絶対合格シリーズ 数的推理 テキスト編・問題集編 ・配布プリント						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1. 濃度(基本解法の確認、応用題演習)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	2. 比と割合、売買損益			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	3. 旅人算(単位変換、出会い算・追いかけ算)、通過算、流水算、その他の速さ			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	4. 時計算			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	5. 仕事算(個別の仕事量、のべ算・2通りで表された仕事量)、ニュートン算			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	6. 場合の数(順列の基本、順列の応用、組合せ)、確率(順列と組合せ、排反・独立反復試行・条件付確率)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	7. 平均算			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	8. 年齢算			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	9. 連立方程式(2文字・3文字の基本解法、変動前と変動後・過不足算)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	10. 不定方程式			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	11. 記数法			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	12. 整数、約数・倍数(割る数と余り、約数の個数と素因数分解)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
	13. 数列・規則(基本的な数列、集合・演算・平面分割)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。			
評価方法	4月～7月での演習問題・小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	数的推理演習・小テスト	○	○				90%
	出席状況				○		10%
履修上の注意							

科目名	数的推理講義(数的図形)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	15時間/45時間	担当者	中川 俊祐		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員試験必須の科目となる数的推理について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストと授業内で配布されるプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や、麻生オリジナルの類似問題を解くことで本試験の出題傾向を学ぶと共に、知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					頻出パターンを理解し、各単元の基本的解法や必要となる数学的知識を身に付ける。	
		○				数学的思考力・論理力を応用して、本試験問題に解答できる適切な解法を身に付ける。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生キャリアサポート編著 絶対合格シリーズ 数的推理テキスト編 ・配布プリント 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	三角形と多角形(内角・外角・対角線)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	2	三角形と多角形(有名三角形、相似)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	3	三角形と多角形(三平方の定理、チェバ・メネラウスの定理)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	4	円(円周角、接弦定理)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	5	円(内接円、円と接線)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	6	「三角形と多角形」「円」総合演習			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	7	面積(三角形)(面積の加減、三角形の高さ)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	8	面積(三角形)(面積比)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	9	面積(円・扇形)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	10	面積(その他)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	11	立体(体積・表面積・展開図)(体積、表面積)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	12	立体(体積・表面積・展開図)(体積比、展開図)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	13	立体(切断・回転図・その他)(立体の切断)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	14	立体(切断・回転図・その他)(回転体)			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
	15	総合演習			テキストの例題を反復練習、絶対合格シリーズ数的推理問題集編の該当する範囲を解く。		
評価方法	4月～7月での演習問題・小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		数的推理演習・小テスト	○	○			90%
		出席状況			○		10%
履修上の注意							

科目名	資料解釈講義						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	長友 裕幸		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員試験必須の科目となる資料解釈について、公務員採用試験に出題される単元を中心に、麻生オリジナルテキストと授業内で配布されるプリントを使用し学習する。また、過去に出題された公務員試験問題や、麻生オリジナルの類似問題を解くことで、本試験の出題傾向を学ぶと共に、知識を確実なものとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各資料の基本的な読み解き方を身につけ、例題や基本問題を解くことができる。	
		○				過去問の演習を通し、実際に試験されるレベルの問題を解けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート編著 絶対合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 導入①(重要ポイント1~2) 図表の見方、割合の計算					
	2	第1章 導入②(重要ポイント3~4) 割合の計算、増減率の考え方					
	3	第1章 導入③(重要ポイント5) 分数の大小比較					
	4	第2章 実数と構成比①(導入、No.1~3)					
	5	第2章 実数と構成比②(No.4~6)					
	6	第3章 指数と構成比①(導入、No.1~3)					
	7	第3章 指数と構成比②(No.4~6)					
	8	第4章 増減率①(導入、No.1~2)					
	9	第4章 増減率②(No.3~5)					
	10	第5章 その他の資料(No.1~4)					
	11	第6章 問題演習①(No.1~3)					
	12	第6章 問題演習②(No.4~6)					
	13	第6章 問題演習③(No.7~9)					
	14	演習プリント(指数と構成比、増減率)					
15	演習プリント(実数と構成比、混合問題)						
評価方法	4月~7月での演習問題・小テストでの総出題満点を100点と換算し評価する。 また、授業への出席・取り組み姿勢・意欲も評価の対象として、以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	資料解釈演習・小テスト	○	○				90%
	出席状況				○		10%
履修上の注意							

科目名	適性一般知識演習						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	75時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	事務適性試験の反復練習を実施し、適性試験に慣れることと処理速度をあげること身につけさせ、点数向上を目指す。また、前週及び前日までに実施された授業について演習試験で確認を行うことで、授業内容の理解と修得状況の確認を行い知識の定着を図る。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			事務適性試験を反復して解くことで、処理速度をあげ、より多くの問題を解くことができる。		
	○	○			演習試験で自己の授業理解度の確認と併に、再試験によって不正解内容の定着がされ、以後同分野問題の解答ができる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・実務教育出版 適性試験No.1～No.100 ・オリジナル教材(一問一答集、社会科学・人文科学・自然科学テキスト) 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		1. 事務適性試験・一般教養演習 1～5					
		2. 事務適性試験・一般教養演習 6～10					
		3. 事務適性試験・一般教養演習 11～15					
		4. 事務適性試験・一般教養演習 16～20					
		5. 事務適性試験・一般教養演習 21～25					
		6. 事務適性試験・一般教養演習 26～30					
		7. 事務適性試験・一般教養演習 31～35					
		8. 事務適性試験・一般教養演習 36～40					
		9. 事務適性試験・一般教養演習 41～45					
		10. 事務適性試験・一般教養演習 46～50					
		11. 事務適性試験・一般教養演習 51～55					
		12. 事務適性試験・一般教養演習 56～56					
		13. 事務適性試験・一般教養演習 61～65					
		14. 事務適性試験・一般教養演習 66～70					
		15. 事務適性試験・一般教養演習 71～75					
評価方法	適性演習試験、演習試験を実施し、正答率を点数換算し総合評価。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	適性演習試験	◎	◎				80%
	演習試験	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	教養演習							
科目名(英)								
単位数	3単位		時間数	45時間		担当者	各担任	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	公務員専攻科 1年							
授業概要	社会科学・人文科学・自然科学・数的推理・判断推理・資料解釈・文章理解について、問題演習と解説を行うことにより知識と知能の定着を図る。加えて、基本授業で展開できなかった知識と解法を新たに学ぶ。							
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					知識に関しての各分野とも基本問題において、得点率70%とできる。		
	○	○				知能に関しての授業での基礎理解を深め、問題演習の得点率を70%とできる。		
テキスト・教材 参考図書	・教員オリジナルレジュメ							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
		1. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)①・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)①②				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		2. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)②・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)③④				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		3. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)③・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑤⑥				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		4. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)④・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑦⑧				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		5. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑤・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑨⑩				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		6. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑥・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑪⑫				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		7. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑦・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑬⑭				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		8. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑧・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑮⑯				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		9. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑨・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑰⑱				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		10. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑩・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)⑲⑳				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		11. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑪・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)㉑㉒				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		12. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑫・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)㉓㉔				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		13. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑬・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)㉕㉖				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		14. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑭・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)㉗㉘				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
		15. 知識演習(社会科学・人文科学・自然科学)⑮・ 知能演習(数的推理・判断推理・資料解釈)㉙㉚				授業終了後に理解できていない箇所について見直すこと。また類似問題を解いておくこと		
評価方法	知識・知能演習問題採点結果の平均成績で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	知識演習採点結果	○					50%	
	知能演習採点結果	○	◎				50%	
履修上の注意								

科目名	二次試験対策(公務員リテラシー)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	15時間/91時間	担当者	担任		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員の職種紹介にて様々な職業理解を深め、進路選択の幅を広めるとともに学習方法や身だしなみ受験申込み上の注意点などを理解することで、公務員試験に合格するための準備を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		公務員の各種職種を理解し、志望先を正しく選択することができる。	
				○		公務員試験を受験する様々な手続きを確実にを行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	勉強の仕方					
	2	グループワーク(匠の里)					
	3	職種説明 海保 + 税務					
	4	職種説明 外務省 + 検察庁					
	5	職種説明 防衛省 + 税関					
	6	グループワーク(月からの脱出)					
	7	職種説明 公安)東京消防+刑務官・事務)特別区+県庁市役所					
	8	一般職・税務の申し込み注意事項 + 卒業生DVD					
	9	面接検定の説明 + 自衛隊説明会(予定)					
	10	面接検定準備					
	11	受験申し込み上の注意					
	12	面接検定準備					
	13	男性)スーツの着こなし 女性)メイクの仕方					
	14	公安)オススの受験先と取り組み 事務)オススの受験先と取り組み					
	15	最終チェックテスト(学内模試成績振り返り)					
評価方法	レポート課題により評価を行う。また、同じ二次試験対策教科項目(面接作文)と(二次試験直前演習)も合わせて評価し、評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たない場合にはD評価(不合格)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○			○		100%
履修上の注意							

科目名	二次試験対策(面接・作文)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	15時間/91時間	担当者	担任		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	作文試験や面接試験に向けて、ペン字を通して人に見られる文字の大切さを学び、面接カードの書き方や原稿用紙の使い方を理解していく。また、自分自身の過去を振り返り、改めて公務員になることを振り返り、それを面接カードに表現できるようになるとともに時事についても学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ペン字を通じ、文字の丁寧な書き方や封筒記入方を学び表現できる。	
	○	○				作文の書き方を学び、文章で自分の考えを表現できる。	
	○	○				面接カードの書き方を通じ、他者へ自分を伝える時に、何が大切な項目かを考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	受験手帳						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	作文導入					
	2	ペン字(名前の書き方)					
	3	作文①					
	4	作文②					
	5	ペン字(履歴書の書き方)					
	6	面接導入					
	7	ペン字(面接カードの書き方)					
	8	面接ノート書き(自分史)					
	9	作文③					
	10	面接ノート書き(志望動機・自己PR・長所・短所)					
	11	作文④					
	12	時事対策					
	13	時事対策					
	14	作文⑤					
15	時事対策						
評価方法	提出物・レポートにより評価を行う。また、同じ二次試験対策教科項目(二次試験直前演習)と(公務員リテラシー)も合わせて評価し、評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たない場合にはD評価(不合格)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文	◎	◎				40%
	ペン字の課題提出	◎	◎				30%
	面接カードの提出	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	二次試験対策(二次試験直前演習)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	61時間/91時間	担当者	担任		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	公務員一次試験の後に、面接試験など二次試験に向けた知識の習得と、教養試験の理解度を深める授業を実施する。 授業運営に関しては、前記の内容を2つのグループに分けて実施する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				本試験過去問において6割の得点を取得することができる。	
			○			面接カードを記載し、本番を想定した面接練習に対応できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験過去問題 ・面接記録表 						
授業計画	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1. 面接対策グループ						
	(1) 面接試験対策①面接必要書類作成						
	②自己分析						
	③面接対応演習:個別面接						
	④面接対応演習:集団面接						
	⑤集団討論演習						
	⑥グループワーク演習						
	2. 筆記試験対策グループ						
	(2) 筆記試験対策①地方公務員試験型 I						
	②地方公務員試験型 II						
	③地方公務員試験型 III						
	④地方公務員試験型 IV						
⑤地方公務員試験型 V							
※試験形式に応じた問題演習を実施							
評価方法	面接対策グループは面接記録表、筆記試験対策グループは解答マークシートの提出により評価を行う。また、同じ二次試験対策教科項目(面接作文)と(公務員リテラシー)も合わせて評価し、評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たない場合にはD評価(不合格)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物	○	○	○			100%
履修上の注意							

科目名	模擬試験演習						
科目名(英)							
単位数	9単位	時間数	136時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	模擬試験を用い実際の試験形式と同様に実施する。 各種形式の模擬試験を経験し試験形式に慣れるとともに、試験結果から理解度を確認し復習と定着に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				本試験過去過去問題で、各回とも7割以上正答できる。	
テキスト・教材 参考図書	・本試験過去問題						
回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	全34回模試演習を下記の内容で実施する。					
	2	1. 国家一般職・税務 8回					
	3	2. 裁判所職員 5回					
	4	3. 東京都 7回					
	5	4. 東京特別区 7回					
	6	6. 東京特別区 7回					
	7	計 34回					
	8	※1回あたりの演習を4時間で実施する。					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	模試採点結果・・・全34回の得点平均で評価する。 ※時事問題など本年度本試験対応に適切でない問題については計算の基礎から除外する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模試採点結果 総合得点平均	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	模擬試験解説講義						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	102時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	公務員専攻科 1年						
授業概要	模擬試験問題に対しての解説を実施する。重要問題と誤解答が多かった問題に対して重要項目の内容説明と解法解説を実施し理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				本試験過去問題で、各回とも7割以上正答できる。	
テキスト・教材 参考図書	本試験過去問						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		全34回の下記模試演習の解説を実施する。					
		1. 国家一般職・税務 8回					
		2. 裁判所職員 5回					
		3. 東京都 7回					
		4. 東京特別区 7回					
		6. 東京特別区 7回					
		計 34回					
		1回あたりの解説を3時間で実施する。					
評価方法	8、9月期に講義内容に基づいた確認テストを行い、得点率で評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	○				100%
履修上の注意							